

福島県立美術館友の会

会報

第20号

2020年 7月

目次

巻頭言	2・3
2019年度友の会活動報告	2・3・6
美術館友の会 会報特集「常設展再発見」	4・5
新型コロナウイルス禍中の美術館	7
2020年度企画展のご案内	8





平成時代の思い出から

福島県立美術館 前館長 早川博明

このたび、福島県立美術館を退任することになりました。建設準備を含む約40年間の美術館勤務を通じて、芸術や美術を愛する多くの方々との素晴らしい交流、そして深い感動に心が洗われた数々の美術作品との出会いを果たせたことは、私の人生最上の宝物になっています。美術館友の会の皆さんをはじめ、これまでお世話になった数え切れない多くの方々に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

この際、私が語り継いでおきたいことは何か。そのように考えて最後に残ったのは、開館から日々お世話になってきた美術館の建物や佇まい、その評価です。当館は三春町出身の建築家・大高正人が設計。大きな日本民家風の外観、巨大な切妻屋根を14本の柱で支えるエントランスホールは、西欧教会堂のゴシック様式を現代風にアレンジして、神聖な佇まいを実現しています。内部の仕上げ材に木、石、ガラスを組み合わせ、澄明な空間を演出しており、全体として非常に個性的な美術館建築といえます。さらに

ホール奥の中央に鎮座しているマリーニの「騎手像」は、ホール空間全体を引き締めつつ躍動感をもたらします。実はこのモニュメント彫刻の設置には大高さん自身が関わりました。大高さんは日本の代表的な野外彫刻展の運営選考委員としても早くから活躍しており、建築空間と彫刻との関係に高い見識をもっていたのです。マリーニ彫刻やヘンリー・ムーア「母と子」、常設展示入口の佐藤忠良作品などの設置には建築家との深い関係が背景にありました。さらに、企画や常設展示室の一部休憩室、そのガラス窓の外に小型の彫刻が設置できる（実現していない）自由な空間を準備していることも独自のアイディアで、また美術館庭園を芝生で広く取った外構計画とし、将来、美術館の野外彫刻庭園が実現できることを建築家として夢見ていました。モダニズム建築の巨匠・前川國男の弟子だった大高さんは、多摩ニュータウン、みなとみらいなど都市計画家としても多くの実績を残し、風土に培われた地方都市の町づくりを進めました。その同時代に福島県立美術館、神奈川県立近代美術館別館などの美術館建築に携わって、豊かな自然を背景にした田園都市にふさわしい美術館建築に挑戦したのだと思います。皆さんには、普段見慣れた美術館空間の意味や特質をあらためて見直し、福島県立美術館をさらに愛していただければ、私にはそれ以上嬉しいことはありません。

友の会のさらなるご発展を祈念します。長い間ありがとうございました。

2019年度友

* 伊藤若冲展

3月26日(火) 5月6日(月)
ボランティアとして土、日曜日祝日のクローク係りと美術館内案内に協力

4月20日発送
友の会だより64号
会報19号



* ワークショップマートものづくりの庭

9月16日(月)
雨でエントランスホールでの開催
ボランティアが各コーナーのお手伝いと制作を楽しみました。

* 研修旅行

9月28日(土)
秋田県立近代美術館と横手市増田まんが美術館2カ所の美術館と秋田名物稲庭うどん名店で昼食(関連記事6P)

台風19号接近で10月12日役員会に欠席者が出て発送作業延期13日に福島水害被害 役員関係にも被害が有り16日に4人で発送作業
10月14日の関根正二展小谷野敦氏講演会も中止となる

10月16日発送
友の会だより67号
森田恒友展ちらし
シター演奏会案内
バザー関連お知らせ

* 2019年度 県立美術館友の会通常総会

2019年5月26日(日) 美術館講義室
2018年度事業報告と収支報告、2019年度事業計画と収支予算が議決されました。
総会終了後2019年度の企画展について美術館よりお話がありました。

6月22日発送
友の会だより65号
研修旅行日程お知らせ

* やなぎみわ展

7月6日(土) 9月10日(火)
ライブパフォーマンス 受付の手伝いとパフォーマンスを鑑賞。

8月24日発送
友の会だより66号
ワークショップマートのボランティア募集
関根正二展チラシ

福島工業高校生制作の機械から飛び出す頭がい骨や、ダンサー高山のみえと内橋和久音楽で「ハムレット」墓堀り物語のパフォーマンスの演技観客が新しい感覚を体験する。

* 中川啓子シター演奏会

11月16日(土)
美術館南の如春荘にて和室いっぱいの方々がシターの優しい響きを楽しみました。(関連記事6P)

* 森田恒友展

11月23日(土) 2020年1月19日(日)
12月21日ゲストトーク「森田恒友の軌道」吉岡知子氏
12月7日、1月11日学芸員のギャラリートーク

* 関根正二展

9月14日(土) 11月10日(日)
学芸員によるギャラリートークで関根の赤(パーミليون)の美しさを鑑賞

* アート・チャリティーバザー

12月8日(日)9時30分 13時
エントランスホールでの開催 ボランティアの協力がありました。(関連記事6P)



就任にあたって

福島県立美術館 館長 長根由里子

友の会の皆様、初めまして。

令和2年4月より、館長に就任しました長根と申します。

このたびは、国の法律改正等に併い、事務方からの初めての館長登用となりました。早川前館長を始め、歴代館長の皆様の足元にも及びませんが、職員一同と協力しつつ、友の会の皆様を始め、当館に足を運んで下さる皆様に、美術を通じた豊かな時間を過ごしていただけるよう、精一杯努めて参りますので、引き続き、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、今年度は、就任早々、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う休館を余儀なくされました。遠くハンガリーから、ジャポニズムやアール・ヌーヴォーの精華ともいえる工芸品の数々を請来した「ブタベスト国立工芸美術館名品展」が、会期半ばで中止となりましたこと、鑑賞を楽しみにされていた皆様には、心よりお詫び申し上げます。

当館では、昨年秋に、関根正二の回顧展を開催いたしました。その関根が、大正8年に、二十歳の若さで急逝したのは、当時、世界的に流行したスペイン風邪によるものでした。それから100年、医学

が格段に進歩したはずの現代においても、未知のウイルスは、経済や観光のグローバル化で、より狭くなった世界をたやすく席卷し、多くの災禍をもたらしています。日本においても、緊急事態宣言が発出され、日常生活が様々な制約を受ける中、美術鑑賞は、「不要不急」の範疇に押し込まれてしまいましたが、このような時だからこそ、美術を始め、芸術・文化活動が、決して、「不要」なものではないことは、皆様ご承知のとおりです。

ひと月近い休館となりましたが、5月16日に、再び開館し、「大津絵展」については、当初の予定通り開催することができました。ご来館の皆様には、マスクの着用など、いわゆる「新たな生活様式」に則した対応をお願いすることとなり、ご不自由をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。当館でも、感染予防対策を徹底するとともに、新たにYouTubeのチャンネルを開設するなど、今ならではの文化の発信にも取り組んでまいります。

また、今年度は、7月から開催する「近現代版画の名作展」を最後に、再び休館し、天井やエレベーターの大規模改修工事を実施する予定です。併せて、展示室の壁や床の全面リニューアルも実施し、再開館の際には、より快適な空間で、美術鑑賞をお楽しみいただけるよう努めてまいります。

なお、休館中も、小峰城歴史館や喜多市美術館をお借りして、テーマの異なる2つの移動展を開催いたしますので、それぞれの地域の秋の風情や味覚を楽しみつつ、是非、足を伸ばしていただければ幸いです。

コロナ禍の収束が見通せない中、まもなく、令和になって、二度目の夏を迎えます。皆様には、時節柄、くれぐれもご自愛ください。

の 会 活 動 報 告

* 友の会だより 68号を出しました

2020年1月25日(土)

2019年度残りの活動予定のお知らせを網羅して発信

友の会だより 68号発信内容 2020年1月25日(土)
ジャポニズムからアール・ヌーヴォーへ展ボランティア申込書とボランティア説明会案内
ギャラリー F2020 コレクション再発見チラシ
「建畠覚造展かたちの探求」と「アートカード・チャレンジ」
ミュージアムコンサート ラテンジャズ 3月7日(土)
友の会実技講座 木炭で静物を描く 3月20日(金)
「ジャポニズムからアール・ヌーヴォーへ」展
3月24日(火) 5月10日(日)

* ギャラリー F2020 コレクション再発見 「生誕100年 建畠覚造展 かたちの探求」展 「アートカード・チャレンジ」展示 2月8日(土) 3月8日(日)

* 「建畠覚造の思い出」ギャラリートーク 2月8日(土) 酒井哲朗名誉館長の建畠覚造の思い出話とスライドでの作品紹介がありました。

* ボランティア説明会 2月15日(土) 「ジャポニズムからアール・ヌーヴォーへ」展の見所の解説とボランティア内容をスライド使用で橋本恵里学芸員が説明、初めての人も参加しました。

新型コロナウイルス蔓延以降の記録

2月22日(土)3月7日(土)のミュージアムコンサートの中止(延期)を決定 友の会会員にハガキで通知 チラシも回収
3月20日(金)の実技講座も中止

3月14日(土)(美術館は9日~19日閉館中 事務室にて) 役員会でボランティア協力者へのお断り連絡を検討

3月7日(土)福島県 3月31日(火)福島市にも感染者

3月24日(火)「ジャポニズムからアール・ヌーヴォーへ」展開催
新型コロナウイルスの感染防止の為、関連の各イベントが中止又は延期に成りました。
クローズも閉鎖 ボランティア協力も無くなりました

年度を超えた4月17日(金)に全国に緊急事態宣言が出て4月18日(土)より美術館閉鎖

5月10日(日)「ジャポニズムからアール・ヌーヴォーへ」展の会期終了

5月14日(木)に緊急事態宣言解除

5月16日(土)に美術館再開

5月30日(土)役員会開催 会報20号 2020年3月発行予定を7月に発行を決める

「常設展再発見」

今年度初めに開催された「伊藤若冲展」には県内外から多くのお客様がお出でになられ美術館も大いに賑わいました。そうしたお客様の反響として「若冲展も良かったけど、ついでに見た常設展が意外と充実していて良かった」という声が聞かれました。日頃は企画展に隠れて地味な存在となりがちな常設展ですが、今回、知っているようで知らない常設展の魅力について再発見しようということで、担当学芸員に常設展のあれこれについてお話を伺いました。

常設展の開催状況はどうか？

常設展は各期3か月程度で年4回開催しています。毎回展示替えをしていますが、多くの作品を順次見ていただきたいということと、作品の保護の観点から期限を限って展示するためです。

常設展の開催手順や展示作品はどのようにしていますか？

まず、年間の全体展示プランを担当学芸員5人で相談して予定を作ります。その際の展示作品の選定にあたっては、まず、お客さんからの要望などを大事にしています。お目当ての作品が見られなかったという声もありますので。さらに、企画展との連動も考慮します。企画展と関連する作品を展示して理解が

より深まるようにしています。また、「福島県立美術館といえどこれ」というようなコレクションの核となるような作品はそれぞれバランスよく展示するようにしています。

改めて福島県立美術館のコレクションの特徴はなんですか？

近代以降を前提として、西洋美術ではモネなどの印象派とそれ以降、ワイエスやベン・シャーンなどのアメリカ具象絵画、日本美術では郷土出身画家の関根正二や酒井三良を中心に近現代の洋画、日本画、さらに斎藤清の数多いコレクションなどがメインです。絵画、版画、彫刻、工芸など合わせて3,800点以上の美術作品を収蔵しています。

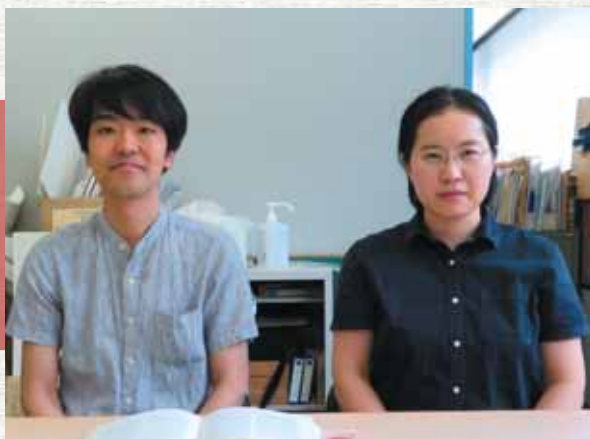
常設展は美術館にとってどんな位置づけでしょうか？

そもそも美術館は、博物館法で美術作品を収集し、調査研究して、適切に保存し、一般に公開する施設とされています。こうしたことからすると常設展はこれらすべてのことにあてはまり、美術館の核として一番重要なものと言えます。将来の世代に遺していくためにも過去、現在の福島の美術をしっかりとつないでいく役割もあるかと思います。



坂本さんおすすめ 吉井忠「くるみを割る自画像」

これは学芸員の面接試験の直前に出会った作品です。大学で西洋美術を勉強してきてベラスケスに似ている絵だと思いました。そのことを面接で述べた思い出の作品です。今の自分があるのはこの絵のお陰です。



常設展の展示でなにか工夫をしていますか？

展示内容としては、代表的な作品を展示したり、企画展と関連付けたりしてより楽しんでもらうようにしています。また新たな視点が提示できるようにしたいとも思っています。解説シートも備えていますが、何か不明なことがあった場合は展示室からお客さんが内線電話で聞けるようにしています。当館の展示室は、広いです。また木目調と大理石の壁面もユニークです。展示の際の工夫としては、見やすいように作品のセンターを145cmの高さに揃えています。

美術館が来館者に期待することは何ですか？

まずは常設展にもっと多く足を運んでいただきたいです。常設展は落ち着いた雰囲気の中で作品と一対一で向き合える場所です。いつでも自分の好きな作品を繰り返し見られます。常設展を見ているある方が、「同じ作品を毎回通って見ているが、作品自体は変わらないのに、毎回違って見える。それはたぶん自分が変わったということの証でもあり、作品を通じて自分を見つめ直す機会ともなっている。」と話していたのが印象に残っています。絵を見るということは、絵と対話するということでもあり、自分の心を映し出すものでもあります。作品全体あるいは、これはという一点を見つけていただいて、豊かな時間を過ごしていただけると嬉しいです。

これからの常設展に向けてどのように考えていますか？

現在も常設展を広く知ってもらい親しんでいただけるような企画として、通常の常設展の外に、テーマを絞って作品を紹介する「Gallery F コレクション再発見」や、子供たちがアートカードを使って自ら考えた展覧会を実際に展示してみることなども行っています。子供たちの展示をみていると、学芸員も日頃気付かなかったような新しい発見をすることがあります。

学芸員としても、調査研究を続けて、お客さんに「こんな作品もあったんだ」というような常に新鮮な視点での提示ができるように心がけています。そして常設展を通じて美術館が生活の一部として心落ち着ける場所として組み込んでもらえるようになればと願っています。今後とも常設展をより魅力あるものにするようにしていきたいと思っていますので、皆様から様々なご意見をお寄せいただき、更なるご支援をいただければ嬉しいです。

今回、常設展担当の坂本篤史学芸員と紺野朋子学芸員にお話をお伺いしました。お二人とも、「多くの作品のうちから自分のお気に入りの、あるいは思い入れのある一点を持つと良いですよ」と話されていました。そこでお二人の“思い入れの一点”をご紹介します。

(聞き手：友の会 貝沼幹夫、舟木藤弘)



紺野さんおすすめ 関根正二「自画像」

福島県立美術館には子供のころから馴染みがありました。20年前の関根正二展でこの作品を見ました。当時高校生だったので、自分と同年代の画家が深く自分を見つめて描いていることに強い印象を受けました。

研修旅行

「秋田県立近代美術館 若沖と京の美術」と
「横手市増田まんが美術館」への旅

2019年9月28日(土)

早川博明館長様にご同行いただき、早朝、34名で
出かけました。

「秋田県立近代美術館」は、秋田県総合文化観光施設「秋田ふるさと村」
にある美術館で、学芸員さんの解説をいただき、企画展・京都細見美
術館のコレクション「若沖と京の美術」の迫力ある若沖の《群鶏図》《雪
中雄鶏図》、重要文化財の茶釜等、京都の洗練された美術工芸品等を、
常設展では秋田県ゆかりの作家、小野田直武・福田豊四郎・平福百庵
等の作品を鑑賞しました。



その後は、各自、ふるさと村内のさまざまな施設を自由に巡り、秋
田県の工芸品や民芸品を見たり、名産品を購入したりと、楽しみました。

昼食は、増田町の国選定重要伝統的建造物群保存地域にある佐藤養
助商店で、稲庭うどん特製ランチを食べ、付随する漆蔵資料館を見学
しました。

「横手市増田まんが美術館」は、1995年に増田町出身の漫画家・矢
口高雄(『釣りキチ三平』等)の業績を記念して作られた美術館を、国
内外の漫画原画20万枚を収集し、5月にリニューアルオープンした本
格的な美術館で、図書室や貴重作品をデジタル化するアーカイブ室・
カフェ等を備えており、原画の迫力や細部を描く細やかさ・連続画に、
感動しました。

お天気にも恵まれ、友の会らしい充実した楽しい旅行でした。

(辺見美江子)



コンサート・
ワークショップ

シターのコンサートとワークショップ

2019年11月16日(土) 会場 如春荘

シターは、主にフランスの修道院で瞑想のために
使われる楽器です。演奏者の中川啓子さんは、2015年にお招きして、
文化センターで演奏していただいたことがあります。今回は中川さん
が仙台を訪問されるのに合わせて、福島での演奏会をお願いしました。
会場は如春荘という美術館の向い側にある和風家屋。ここは福島大学
経済学部の同窓会館でした。40畳敷の広間の中央で、40名ほどの聴
衆が楽器を囲んで聴くという、アットホームなコンサートでした。中
川さんは、シューマンやサティのクラシックの名曲から、サウンドオ
ブミュージックなどポピュラー名曲を、素朴で優しい音色で聴かせて
くださいました。楽器の解説や、楽器に触れて音を出してみるワーク
ショップも交えて、晩秋の午後、なごやかな時間を過ごすことがで
きました。(伊藤匡)



アート・
チャリティ・
バザー

「今年も盛況のうちに！」

2019年12月8日(日)

12月8日(日)美術館エントランスホールにて恒例
のチャリティーバザーが開催されました。昨年に引き続き、開店からたくさん
の来場者でホールは熱気に包まれました。掘出し物、お目当て品が続出
これからも、楽しんでいただけるバザーを開催していきたいと思いを
ました。

(舟木藤弘)



実技講座

実技講座

3月20日開催予定「木炭で静物を描く」は、新型コ
ロナウイルスの感染が拡大している状況を受け、中止す
ることになりました。

残念でしたが、次の機会を待ちたいと思います。

(佐藤みどり)

奇跡的な交流 ブタペストと福島

副館長兼学芸課長 荒木康子

2020年のお正月、「ウィズ・コロナ」「新しい生活様式」などという言葉が日本中に飛び交うことになることを誰が想像したでしょう。「ブタペスト国立工芸美術館名品展 ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ」展は、まさにコロナ旋風が猛威を振るい始めた最中、準備が佳境に差し掛かっていました。昨年12月、調査と打ち合わせにハンガリーに飛んだ橋本恵里学芸員から、本展の監修をして下さったガブリエッラ・パツラ陶磁器ガラスコレクション部長はじめ学芸員の皆さんのこと、そして何より素晴らしい作品のことを聞き展覧会への期待が高まっていただけに、コロナウィルスの感染拡大報道は、私たちスタッフを大いに不安にさせました。本当に作品は日本に来るのだろうか。しかし3月15日、パツラさん、保存担当のアンドラーシュさんと共に作品は長旅を終えて無事に福島に到着。奇跡的なことでした。翌日から、作品の開梱、点検そして展示作業が張り詰めた空気の中で行われましたが、梱包を解かれ次々と目の前に現れる美しい作品に、私たちは心底うっとりし、自然に心がほぐれていきました。多くの方々に見ていただきたいと、あの場にいた誰もが感じていたと思います。

しかしフライトの運行状況は日に日に悪くなり、パツラさんたちは開会式を待たず、予定を繰り上げてハンガリーに帰国されました。展覧会は3月24日、予定通りに開幕しましたが、その後の経過はご存知のとおりです。友の会の皆さまには、例年のようにボランティアでご参加いただきたいと考えておりましたが、残念ながらそれもまなりません。4月16日から休館。その後再開することなく展覧会は終了い

たしました。

ティファニーはじめ、ハンガリーのジョルナイ工房など各工房の優品が並び、素晴らしい内容の展覧会だったことは間違いありません。しかしグローバルな東西の文化交流によって150年ほど前に生まれた芸術の精華をご紹介する展覧会は、グローバルな人の行き来が招いたパンデミックに行く手を阻まれたと言って過言ではないでしょう。しかしこの展覧会実現に向けて力をお貸し下さったハンガリーの皆様のお気持ち、私たちはしっかり受け取ることができました。交流ができたことに心から感謝しています。今後もこの奇跡的なご縁を大事にし、交流が繋がっていけばと思います。



コロナウィルス感染事態時に「ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ」展を見る

友の会 会長 丹治孝子

2019年度友の会活動は、盛会だった「伊藤若冲展」の協力ボランティアから始まり、美術館の展覧会に沿って楽しみの沢山有ると期待してのスタートでした。

恒例の研修旅行も早めに目的地が決まり、9月28日に遠距離の秋田県への楽しい旅行、9月16日の「ワークショップマートものづくり」は雨で、館内開催ながら賑やかでした。11月の思いがけないシターのコンサートや12月のバザーは大勢の参加者とボランティアの協力があり、友の会員、美術館職員の方々との一体感を感じさせられました。

ただ、10月中旬の台風19号が全国に吹き荒れ、福島にも甚大な被害が出て、イベントが中止に成る等、なんとなく不穏な天候異変が有り、年が変わって、2020年の1月中旬から中国に不穏なコロナウィルス感染の発生がはじまり、世界を巻き込み、日本にも広がりました。3月上旬には福島県にも陽性者1人が出ました。

ウィルスの感染が心配されている中、3月24日に「ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ展」が開催されました。人と人との接触回避を考えボランティア活動が中止となり、ボランティア募集に応募して下さって、事前に展覧会の概要を勉強し、来館者との会話を楽しみにしていた係りの方たちには、その機会もなくなりました。更に4月18日に緊急事態宣言で美術館が閉鎖となって、展覧会後半の展示を多くの人が見ることが出来なくなりました。私も自宅待機で外出を控えて機会を逸しました。

諦めていた5月に思いがけず見る機会に恵まれ、静かな会場に展示

されている作品の個性や色彩の豊かさを一つ一つゆっくり見ていたのが、展示場の途中まで来た時に会場全体の作品が何かを訴えて居るように迫って来てビックリしました。私にとって今まで経験のしたことのない感情の経験でした。遠くハンガリーから期待を持たれて渡って来たガレヤリククの作品の迫力の強さが発する事とは思ったものの、今まで数多くの展覧会で素晴らしい作品に感激した時とは異なるものでした。鑑賞者の居ない会場に陳列されていた作品達が、「こっちを見て、こっちを見て！皆のお蔭でここに居るんだから」と発して迫って来るような感覚でした。あれは、私のコロナウィルス感染の外出自粛生活が、体だけで無く心まで閉塞していた事への警告、若しくは癒やし、の語りかけだったのかもしれないと、今は思っています。この言葉はこの展覧会を鑑賞出来た人にも出来なかった人にもお伝えし、コロナの非常時に素晴らしい展覧会が有った事を記憶に留めて頂きたいと思いました。5月10日に展覧会が閉会され 5月14日に緊急事態宣言解除が発表された時は、せめて1週間速ければと残念でした。

2020年3月に早川館長さんが御退任なさいました。福島県立美術館開設から関わり、2012年からは館長として友の会の活動にもご協力下さいました。旅行へのご参加、会報へのご投稿、いつも、穏やかなお人柄で接して下さいました。有り難うございました。

遅れていた3月発行の会報が遅れての発行となりました。2019年度は異常な年でしたが、めげずに此からの活動をして行きたいと思しますので、皆さまのご協力を宜しく願います。

ブダペスト国立工芸美術館名品展
ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ

会期：2020年3月24日(火) 5月10日(日)

19世紀後半、日本の美術・工芸品がヨーロッパに流入し、日本の文物に人々が熱狂する「ジャポニスム」現象が起こりました。本展は、アール・ヌーヴォーとジャポニスムをテーマに、日本美術を西洋がどのように解釈したかについての歴史を辿るものです。ガレ、ティファニーやハンガリーを代表するジョルナイ陶磁器製造所などによる貴重な作品群約200点をご紹介します。



ルイス・カンフォート・ティファニー《孔雀文花瓶》1898年以前
ブダペスト国立工芸美術館蔵

近現代版画の名作 2020
もうひとつの日本美術史

会期：2020年7月11日(土) 8月30日(日)

日本近現代美術を世界でも際だってユニークにしているものに版画があります。本展は、地方の美術館が調査収集活動を続けてきた近現代版画のコレクションを基に、日本の近現代美術をあらたに見直そうとするものです。山本鼎、恩地孝一郎、斎藤清、横尾忠則ら約300点の名作をご紹介します。



山本鼎《フルトヌ》1920年
千葉市美術館蔵 *半期展示

もうひとつの江戸絵画 大津絵展

会期：2020年5月19日(火) 6月28日(日)

江戸時代、大津近辺の宿場町で売られたみやげ物絵、大津絵。明治以降、そのユーモラスで漫画チックな絵に魅せられてコレクションした人々があらわれました。この展覧会は、浅井忠や梅原龍三郎、柳宗悦ら旧蔵者のわかる名品約140点が一堂に会する美術館初の試みです。ピカソも愛した大津絵をぜひお楽しみ下さい。同時開催 山内神斧と吾八の時代



《酒呑猫(大津絵画帖より)》日本民藝館蔵

福島県立美術館の名画たち

会期：2020年9月12日(土) 11月8日(日)
会場：小峰城歴史館(白河市郭内1-73)

休館中、県立美術館のコレクションを県内2つの会場で展示いたします。白河市の小峰城歴史館では、大正期に活動した白河市出身・関根正二を中心とした日本の近代洋画や、近世から近代にかけての日本画の名品を精選してご紹介いたします



関根正二《姉弟》1919(大正8)年
福島県立美術館蔵

表紙解説

百瀬 寿《S-Silver and Gold by Silver and Gold》

1986(昭和61)年 紙 シルクスクリーン 90.2x90.2cm

百瀬寿(ももせ ひさし 1944年生まれ)は、現代の日本を代表する版画家です。北海道出身ですが、岩手大学特設美術科を卒業し、以後盛岡市で制作を続けています。

百瀬の技法は、シルクスクリーンと呼ばれる孔版の版画です。原理は、木枠に張った絹(シルク)やナイロンの幕(スクリーン)を型紙(版)として、上から盛ったインキをスキージなどの道具でならし、刷りあげます。身近なところでは、Tシャツのプリントにも使われています。

百瀬は、越前和紙の上にメタリックな金色や銀色を何度も刷り重ねて、微妙な階調を表します。明るく華やかな色のグラデーションが魅力です。

なお、この作品は『近現代版画の名作2020』(7月11日~8月30日)で展示される予定です。



福島県立美術館
世界の名作展

会期：2020年10月18日(日) 11月17日(火)
会場：喜多方市美術館(喜多方市字押切2-2)

喜多方市美術館の会場では、当館が誇る海外作品の名品を展示します。フランス美術では、印象派のピサロや幻想性溢れるシャガールなど、アメリカ美術では、ベン・シャーンやワイエスの名品をご紹介します。また、絵画だけでなくロダンなど彫刻作品の名作もご堪能頂けます。



カミーユ・ピサロ《エラニーの菜園》1899年
福島県立美術館蔵

福島県立美術館友の会「会報」第20号 2020年7月発行
発行 福島県立美術館友の会 / 編集 舟木藤弘・丹治孝子・栗原真理

お知らせ 友の会では会員を募集しています。会報への投稿も随時募集しております。